

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 81
平成27年

案内 平成27年度全国大会

研究発表会申し込み

発行 日本庭園学会(会長 鈴木久男)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境学部 造園科学科
ガーデンデザイン研究室内
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>

平成27年度日本庭園学会全国大会 開催案内

平成27年度日本庭園学会全国大会を、下記のとおり開催いたします。会員のみなさまの大会への参加を、心よりお待ちしております。

記

シンポジウムのテーマ「江戸の庭園を探る」(仮)

近年東京では、江戸期の大名藩邸の発掘調査や、文献史研究が進展し、興味深い知見が蓄積されつつあります。本シンポジウムでは、考古学、造園史、建築史等の他分野の方々を交え、江戸の庭園に関する多面的な検討をおこないます。

<日程・内容・会場>

■日程

平成27年6月13日(土)～平成27年6月14日(日)

■内容

6/13: 現地検討会およびシンポジウム

「江戸の庭園を探る」(仮)

6/14: 研究発表会および総会

日本庭園学会賞受賞者講演等

■会場

現地検討会: 懐徳館庭園(東京大学本郷キャンパス内)

シンポジウム: 中島董一郎記念ホール

(東京大学弥生キャンパス内)

情報交換会: アブルボア(東京大学弥生キャンパス内)

研究発表会、総会: 中島董一郎記念ホール

(東京大学弥生キャンパス内)

<参加費>

学会員: 2,000円

非会員: 4,000円

※学生は、会員の場合1,000円、非会員の場合は2,000円とします。

※大会参加費については、1日のみの参加でも上記金額を徴収します。

情報交換会(6/13): 5,000円程度を予定

<問い合わせ>

栗野 隆(日本庭園学会全国大会運営担当、東京農業大学)

電話: 03-5477-2428 メール: t3awano@nodai.ac.jp

平成 27 年度全国大会 研究発表会での発表の申し込みについて

■研究発表の募集

平成27年度の研究発表会で発表を希望する方は、下記の要領をお願いいたします。

発表時間は、ひとりあたり30分とし、発表25分、質疑応答5分を予定しています(変更する場合があります)。また、発表にはPCプロジェクターの使用が可能です。

◆発表申込み期限

平成27年3月30日 (月)

◆申込み方法

発表者氏名・所属・題名・連絡先を明記し、発表概要(200字程度)を添付のうえ下記の「発表申込先」までお送りください。原則的にはEメールとしますが、郵送もしくはFAXでもかまいません。

◆発表要旨提出期限

平成27年5月8日 (金) (本文版下原稿の郵送期限)
※Eメールでの送付の場合は、当日17:00までとする

◆執筆要領

全発表者分を研究発表要旨集として印刷し、当日参加者に配布します。原稿はそのまま要旨集の版下とします。そのため、ワープロを使用しての作成をお願いします。分量は、A4判で2ページもしくは4ページ、6ページ、8ページとします(奇数ページでの原稿は、受け付けませんのでご注意ください)。

原稿の体裁は、学会HPよりダウンロードしてください。

◆発表の申込み先・発表要旨の提出先

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科

全国大会運営委員 栗野 隆

電話 03-5477-2428

FAX 03-5477-2625

Eメール t3awano@nodai.ac.jp



平成 26 年度関西大会シンポジウム



平成 26 年度関西大会研究発表会



平成 26 年度関西大会シンポジウム

レポート

平成 26 年度日本庭園学会 関西大会
東本願寺 渉成園（枳殻邸庭園）現地見学会

森 泰規

株式会社博報堂 コンサルティング局

「袖ひちてむすびし水のこほれるを春立つけふの風やとくらむ」と立春に臨んだ貫之の表現世界は、静止した言語芸術の内に、夏・冬・春の時間的推移を巧みに織り込んでいる。

このように静止画的な対象物に、複雑な時間的推移が見出されることがある。そういった感覚をより鍛えた方が、日本庭園の魅力を、あるいは決算期企業のバランスシートの深奥を、正しく把握することができると、日々自らを戒めている。そういった感覚は、容易な習得を許さない、目もくらむような難題を経て得られることだろうが。

さる 11 月に、日本庭園学会関西大会へ参加し、初日朝のプログラムで、植彌加藤造園 加藤社長のご案内により、「東本願寺 渉成園（枳殻邸庭園）」を訪問する機会を得た。折からの雨で、その通称を示す枳殻（カラタチ）が雨に濡れて美しく、最初はモノクロ刷りの資料でみたこの庭園の「高石垣」の印象が、中央アメリカに残された石壁のように、あるいは十代の終わりにベルリンのペルガモン博物館（Pergamonmuseum）で出会ったバビロンの「イシュタル門」のように強く残っており、そこを立ち去るのが惜しく、庭園内に足を踏み入れても、しばらくその残像を引きずった。

しかしその内実には複雑な背景があった。

当日の案内にもあったが、かつては漏水により池が干上がるようなところから再生してきたのがこの渉成園だったと聞く。おそらくは関係者の誠実な努力により、ここまでに、かつての姿を、本質的価値を再生させつつあるという。たしかに、いま振り返ってもなお、この庭園は誠実に管理された場所ではあるが、どこか野生の匂いがする。池の鯉に色のあるものは見いだせなかったし、木々の枝ぶりにもどこか野生に溶け込む何かを感じさせる。それが悪いと言うのではない、何か次の段階へ移行しうるものが予見される。

この庭のいまある姿は、＜到達点＞ではなく＜参照点

>（points de repère）なのだろう。そのことは、この庭にかかわる方々が自ら認識し日々取り組んでおられることだろうし、だからこそ私たちはこの庭とともに、将来を志向することができるといえる。

「庭師二百年説」はやはり正しかった。

私たちは現実的には、ある一点しか参照する事ができないが、何段階かの適切な考察を経れば、作庭時からの変遷だけでなく、そういった近年の努力についても、この庭のうちに過ぎた時間と、これから過ぎる時間の意味を理解できる。そういった感覚を持つことは、多方面で、私たちの社会にとって重要な意味をなすだろう。

渉成園には、どのような春が立つであろうか。



平成 26 年 11 月日本庭園学会関西大会 渉成園にて



平成 26 年 11 月日本庭園学会関西大会 渉成園にて

庭園学会会員の勤務施設からのお知らせ

文京ふるさと歴史館では、来る2月14日（土）～3月22日（日）、明治～大正年間にかけての地誌や錦絵などの館蔵資料を中心として、『明治・大正の小石川を訪ねて―「新撰東京名所図会」展一』を開催いたします。

当館では平成18年度に、隣接する千代田区、新宿、両区の博物館施設との合同企画として、『水戸黄門邸を探る』を開催いたしました。この展示会の開催後に収集した、小石川後楽園を始めとする文京区内の文化財庭園に関わる絵画資料や写真資料中から、今回の展示会では、旧・小石川区に該当する地域の、小石川後楽園や小石川植物園などに関わる資料を紹介します。

この中で特に、明治39・40年（1906）に発行された『新撰東京名所図会 小石川区之部』に焦点をあてた展示構成となっています。『新撰東京名所図会』とは、明治29年（1896）から同44年にかけて、東陽堂から発行された雑誌『風俗画報』の臨時増刊として刊行された、今日風に言うビジュアル系の雑誌です。東京の名所などをそれぞれの町ごとに紹介したもので、文章のみならず、多くの挿絵や写真が掲載されています。

また名所旧跡に限らず、まちなみなどについても紹介されており、今日程に写真技術の普及していなかった当時の東京を知る地誌資料としても貴重なものです。『新撰東京名所図会』に紹介された事柄に関連する資料や、当時の小石川区の様子がわかる資料を展示します。

水戸徳川家の屋敷内庭園「後楽園」の名残りである特別史跡・特別名勝小石川後楽園。この庭園は、かつては陸軍の兵器工場（砲兵工廠）の敷地内にあり、山県有朋の肝煎りで特別に保護され、陸軍の管理下にあった時は、現在の様に一般公開はされていませんでした。当時の後楽園は、工場長官に許可がないと入園ができませんでした。日本赤十字社では、明治39年に入園の許可を得て「参観証」を作成し、総会に参加した社員に配布しました。大変貴重な、この参観証なども展示します。博物館の展示資料から、現在とは違う明治、大正の小石川を訪ねてみてはいかがでしょうか。折りしも、小石川後楽園は梅が見頃の季節です。また東京都の旧跡から、国指定文化財に変更されて間もない小石川植物園も、一見の価値あります。

どうぞ、ご来館下さい。（文責：文京ふるさと歴史館 加藤元信）



【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願ひします。

協力者：栗野隆、加藤元信、山本千晶

日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342